令和６年度（2024 年度）渡島管内教育実践表彰

渡島教育局では、広く教育に関し、優れた実践活動により学校教育又は社会教育の向上に大きく貢献し、その功績が極めて顕著な団体又は個人を表彰し、管内教育の充実振興を図ることを目的に、昭和 42 年度から毎年「渡島管内教育実践表彰」を実施しています。

今年度は、学校教育関係から７つ、社会教育関係から１つ、計８の学校、団体及び個人を受賞者として決定し、授与式を実施しました。

函館市立亀田中学校

北海道函館西高等学校

北海道函館盲学校・北海道函館聾学校

北海道南茅部高等学校
教諭　坂本　塁

北海道七飯養護学校
教諭　根市　護

函館市小学校音楽教育研究会
（代表校：函館市立あさひ小学校）

函館市中学校音楽教育研究会
（代表校：函館市立北中学校）

函館市スポーツ少年団

函館市立亀田中学校

校　長　山　口　哲　也

学級数　15 学級　生徒数　469 名　教職員数　30 名

「自律共鳴」を目指した教育活動の充実

永年にわたり、「すべての教育活動は『自立共鳴』のために」というスローガンを掲げ、家庭や地域との連携・協働を図りながら、特色のある教育活動に取り組んでいる。

特に、令和５年度の全日本中学校道徳教育研究大会北海道函館大会においては、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官を講師として招聘し研鑽を積むとともに、「道徳教育推進教師を核とした組織的授業づくり」の実践として「ローテーション道徳」による授業公開を行い、大きな成果を上げている。

また、令和６年度には、文部科学省「道徳教育アーカイブ」として、本校の道徳教育推進教師が授業公開を行うなど、優れた実践は高く評価されている。

北海道函館西高等学校

校　長　古御堂　　徹

学級数　18 学級　生徒数　706 名　教職員数　53 名

「函西 Well-being 共創プロジェクト」による探究活動の充実

永年にわたり、地域とともにある学校づくりを推進し、「函西 Well-being 共創プロジェクト」として、「探究活動」を基軸としたカリキュラム・マネジメントの確立、教科等横断的な視点に立った生徒の資質能力の育成に取り組んでいる。

特に、地元で活躍する人を紹介する「未来を創るヒト図鑑」や企業と連携してＳＮＳでの文章のやりとりで生じる誤解を軽減するシステムの開発を行うなど、生徒が主体となって、函館市、大学、企業と連携して、経済、社会、環境等を踏まえた探究活動に大きな成果を上げている。

また、その探究活動の成果や実践を他校にも広く紹介し、他校と共に探究活動を行うなど、その探究活動の在り方が高く評価されている。

北海道函館盲学校・函館聾学校

校　長　井　上　　敬・門　眞　義　弘

（函館盲学校）学級数　６学級　児童数　10 名　教職員数　22 名
（函館聾学校）学級数　７学級　児童数　13 名　教職員数　21 名

道南における視覚障がい及び聴覚障がいに係る特別支援教育の充実

永年にわたり、両校は、道南における特別支援教育のセンター的機能を担う学校として、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒や保護者、関係機関等への支援や助言等に取り組んでいる。

特に、平成 11 年度から現在までの 25 年間にわたり、渡島・檜山管内において、視覚障がい及び聴覚障がいに係る就学事務打合せや巡回教育相談に取り組み、早期からの適切な支援や学校教育への円滑な接続、在籍する学校における指導・支援の充実に大きな成果を上げている。

また、見え方や聞こえ方に支援が必要な幼児児童生徒についてのアンケート調査で実態把握を行い、各市町教育委員会や保健福祉部局との情報共有等に努めるなど、その取組は高く評価されている。

※児童・生徒数及び学級数は、それぞれ R6.5.1 現在

北海道南茅部高等学校　教諭　坂　本　　塁

家庭科教育及び探究学習の充実と普及

永年にわたり、家庭科教諭として実践的体験的な教科指導を行うとともに、商業科や理科などの他教科と連携した教科横断的な学習にも積極的に取り組み、高等学校家庭科の教育活動の充実に尽力している。

特に、北海道高等学校教育研究大会家庭科部会において、道立学校間連携による遠隔授業の実践について発表を行い、自校及び松前高校、福島商業高校との連携で実施した研究成果を全道に普及し、北海道の高等学校家庭科の教育活動に多大な貢献をしている。

また、「渡島フロンティア人材育成事業」では、学校における取組の中心として活躍し、探究学習の充実に貢献している。さらに、「縄文クラブ」の顧問として、生徒が青森県や秋田県の県立高校の生徒との交流を進められるよう、積極的に取り組んだことは高く評価されている。

北海道七飯養護学校　教諭　根　市　　護

専門性を生かした地域における特別支援教育の充実

永年にわたり、特別支援教育コーディネーターとして、特別支援教育の専門性を生かしながら、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に尽力してきた。

特に、特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業では、派遣先の学校職員とリモート研修を複数回開催し、通常の学級における支援の考え方の説明や効果的な教材の紹介を行うなど、小・中学校に在籍する障がいのある児童生徒の教育的ニーズに応じた適切な支援の充実に向けて、多大な貢献をしている。

また、独自に工夫した様式を基にした授業場面の観察や教育相談、研修会の実施など、地域の小・中学校等における特別支援教育に係る教師の専門性向上に向けた取組は高く評価されている。

函館市小学校音楽教育研究会

［代表校　函館市立あさひ小学校］

会員数　22 名

豊かな情操や感性の育成に向けた教師の指導力向上

永年にわたり、「音楽を通して児童の豊かな情操や感性を育成すること」を目指し、歌唱や器楽演奏などの指導方法の研究を深めるとともに、会員の指導力向上に取り組んでいる。

特に、函館市内の小学校の子どもたちが音楽を通して交流する目的で、函館市小学校合同音楽会を毎年開催し、昭和 55 年に発表した函館子どもの歌「海です」や、平成 12 年に制定した 21 世紀函館子どもの歌「子どもはひかりのおくりもの」は、函館の子どもたちに歌い継がれるなど、大きな成果を上げている。

また、全国・全道規模の音楽教育研究会を開催するとともに、研修会等で実技講習に加え、ICT を活用した授業実践の交流を行うなど、音楽教育の充実に向けた取組は高く評価されている。

函館市中学校音楽教育研究会

［代表校　函館市立北中学校］

会員数　22 名

音楽教育の振興・発展に向けた教師の指導力向上

永年にわたり、「中学校音楽教育の理念や実践のあり方について研究し、会員の資質向上と音楽教育の振興・発展に寄与する」ことを目指し、会員の指導力向上に取り組んでいる。

特に、授業研究や各種研修会を定期的に実施し、研修会では、実技や授業づくりの講習会はもちろんのこと、生徒を対象にして会員が講師となる講習会を行うなど、教師の指導力向上に向けて工夫するとともに、全国・全道規模の音楽教育研究会を開催し、実践を発信するなど、大きな成果を上げている。

また、函館市中学校合同音楽会を開催し、平成９年に制定した函館市中学生の歌「明日が見えるから」は、音楽会の中で歌い継がれるなど、音楽教育の振興・発展に向けた取組は高く評価されている。

函館市スポーツ少年団

本部長　長　瀬　圭　治

会員数　977 名

地域と家庭が連携する運動環境の整備

永年にわたり、多くの子どもたちにスポーツの楽しさに触れる機会を提供することにより、子どもたちの発達段階に応じた心身の健全育成に取り組んでいる。

特に、「指導者・母集団の研修会」においては、子どもたちのスポーツ活動を支える指導者や保護者を対象とした研修を実施し、指導力の向上を図るとともに、指導者や保護者間のつながりづくりを進め、地域と家庭が連携した運動環境の整備に大きな成果を上げている。

また、「運動適正テスト」及び「ジュニアリーダー研修会」を通して、子どもたち同士が協働的に関わり、運動に親しむ資質・能力を育成する取組は、高く評価されている。